

報道機関 各位

令和5年11月吉日

医療機関の需要増！必要な献血協力を確保できず

年末にかけて血液在庫ひっ迫の恐れ

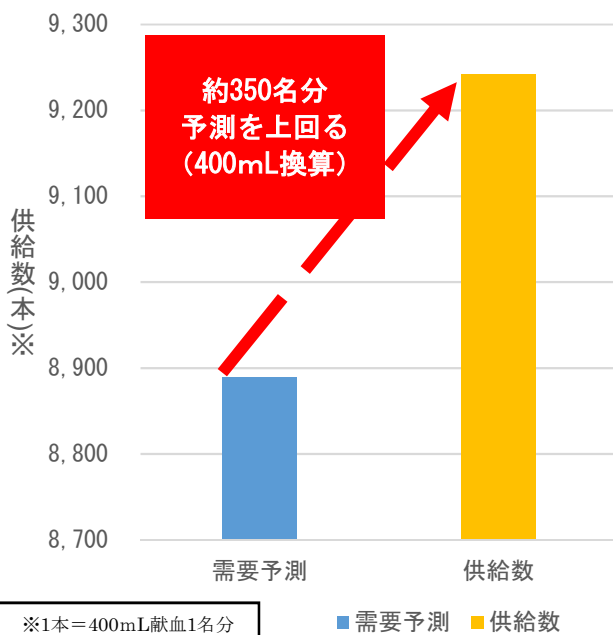
茨城県内の医療機関において必要とされる血液製剤（赤血球製剤）は、関東甲信越地域1都9県の各血液センターで献血血液を確保し、通常、平日の医療機関への供給3日分を保有するよう在庫管理しておりますが、10月以降医療機関からの需要が増加傾向にある一方、必要な献血協力を確保できておりません。

赤血球製剤は採血後28日間という有効期間があるため、常に一定数の献血協力者を必要としており、現状のまま推移すると、年末にかけて在庫がひっ迫する恐れがあります。赤血球製剤は命にかかわる緊急時に使用することも多く、この状況が続くと、輸血を必要としている患者さんへ安定的に血液をお届けすることに支障をきたす恐れがあります。とくにA型およびO型については医療機関の需要に必要な献血協力者数が追いついておらず、可能な限り早期に献血協力が必要な状況です。

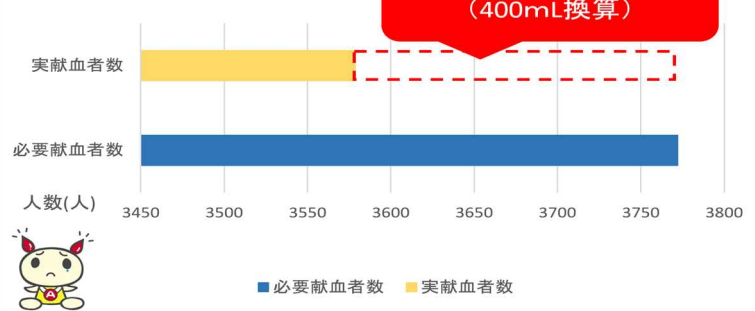
科学技術が発展した現代においても、血液は人工的に造ることができないため、輸血を必要としている患者さんの命を救うには県民の皆様への献血へのご協力が必要不可欠です。

報道機関の皆様におかれましては、現状をご理解いただき、県民の皆様へ献血協力の必要性をお伝えいただきたく、特段のご配慮をお願いいたします。

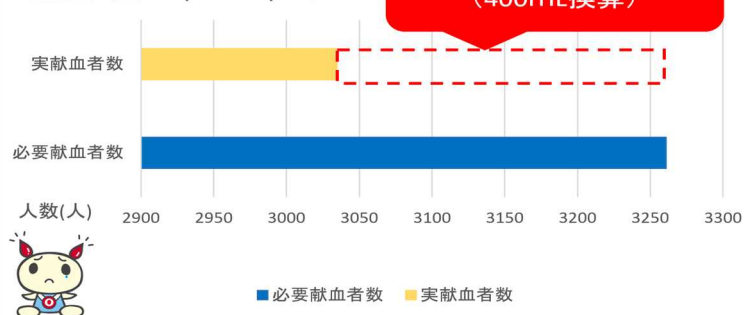
参考1) 茨城県内供給状況 (赤血球・10/1～11/19)



参考2) 茨城県内献血状況 (全型A型・10/1～11/19)



参考3) 茨城県内献血状況 (全型O型・10/1～11/19)



【お問い合わせ先】

日本赤十字社 茨城県赤十字血液センター 献血推進課 (平日 8:30～17:00)

TEL : 029-246-5574 FAX : 029-246-5615 e-mail : ibc-suishin@kts.bbc.jrc.or.jp